

森の1億円ゲーム

プログラムの概要・ねらい

施設内にある葉っぱや木の実などを1億円（お金）に見立て、集めたお金を増やすゲーム。自然に触れながら、特徴のある葉っぱや木の実を見つけると同時に、自然の家で過ごす仲間とのコミュニケーションを深めることをねらいとする。

場所	施設内全域（屋外）	  
時間	30分～1時間30分	
値段	無料	
季節	夏～秋推奨	
人数	何人でも	
準備物		【利用者】 軍手、季節に合わせた服装、救急用品 【自然の家】 特になし

①準備

指導者は事前に想定される森にあるお金になりそうなものを考えておく。また、子どもたちが行動してよい範囲を特定しておく。その上で、お金として認定したものとわかる工夫をする。（一枚一枚袋に入れるとか、印をつけるなど）

②実施の流れ

【時間】

- 0:00 ルール・集合場所・時間・範囲の確認をする。
 ルール1：森の中からお金になりそうなものを5つ集める。
 （数は指導者が指定する。）
 ルール2：「森のお金」を持って相手を探し、じゃんけんに行く。勝ったら、「森のお金」をもらう。負けたら「森のお金」を渡す。
 ルール3：お金がなくなったら、「森の銀行」（指導者）に行って森のお金を3枚借りる。（枚数はその指導者が決める。最後に返す。）その際、「自然の家で努力すること」を宣言する。「楽しかったこと」を声に出して伝える。
 ルール4：ゲーム終了時に、「森のお金」を数える。たくさん集まった人が「森の億万長者」
 ルール5：集めた「森のお金」は森に返す。
- ※ 「森のお金」の値段は指導者が指定。またはみんなで決定。例えば、「どんぐり」は5億円。葉っぱは1億円。珍しい木の実などは10億円など・・・ゲームを始める前に「森にある珍しいものを探してこよう。」と言って始める。
- 0:15 実際に、「森のお金」を見つけに行く。30分程度
- 0:45 全員が帰ってきたところでじゃんけんを始める。
- 1:15 集合
 純粋に集めた「森のお金」の枚数でチャンピオンを決める。
 事前にルールとして伝えておいた場合、珍しいものを見つけてきた人に値段を伝え、より高い金額を持っている人が勝ちとしてもよい。
- 1:30 終了
 ※注意が必要な動植物があるので確認し、スズメバチや毒ヘビ・漆（うるし）に遭遇した場合の注意をする。
 （別紙 注意が必要な動植物参照）



【ルールのバリエーション】

何回戦かやる前提で、はじめに「森のお金」を（葉っぱ）に限定したり、（木の枝・木の実）に限定したりして集めさせる。季節によっては色を指定することもよい。

③後片付け

特になし